



教会短信

2014年12月14日

No. 60

牧師 間瀬 善彦

「学者たちはその星を見て喜びにあふれた」（マタイ福音書2章10節）。

今年も早くもので12月です。皆さん、この1年はどのような1年だったでしょうか。

クリスマスが近づいてまいりました。クリスマスは、わたしたちの救いのためにこの世に来てくださったイエス・キリストのお誕生をお祝いする日です。

約2千年前、東の国の占星術の学者たちが異様に輝く星を見て、メシア（救い主）の誕生の知らせだと気づきました。しかし、彼らが聞いていたのは、ユダヤ人の王としてお生まれになった、救い主のお誕生でした。

わたし自身も最初聖書を読んだ時そう思いましたが、学者たちにとって、あまり縁のない、異国の王として救い主が生まれたということでした。どんなに素晴らしい人が生まれても、それが異国の王であり、自分たちとあまり関係のないのであれば、大きな喜びではありません。しかし、3人の占星術の学者たちは、そうは思わなかったのです。その知らせを受けた時、ラクダに乗って、はるばるとユダヤの国に救い主を訪ねてまいりました。そして彼らはずいぶん、その救い主とお会いし、お誕生を祝い、大きな喜びをもって家に帰ったと聖書は記しています（マタイ福音書2章1～12節）。

日本ではクリスマスと言えば、ずいぶん賑やかになりました。デパートや商店街の歳末商戦と重なって、イルミネーションで華やかに祝われるようになりました。しかし、皆さんは、イエス・キリストの誕生を、どのようにお感じになっておられるでしょうか。何か、それは遠い国のことで、自分とはあまり関わりのないことのように思われてはいないでしょうか。そのように思われても、当然のことかもしれません。

しかし、あの占星術の学者たちが、その救い主を訪ねてはるばる遠くからやって来たように、皆さんも、このイエス・キリストの教えを信じて、救いを求めて行く時に、この方こそ自分の人生の救い主としてお生まれになった方であることを、きっと知ることができることでしょう。そして、あなたの人生を充実した豊かなものとしてくださる救い主を、心のうちに迎えることができるはずです。ですから、クリスマスはわたしたちにとって、喜びの日なのです。

どうぞ、クリスマスには、教会で救い主のお誕生を一緒に祝いいたしましょう。

この1年間、「教会短信」を読んでくださりまして、心から感謝いたします。



チョット疲れを感じる私は、この世の人生について「いわば旅人であり、仮住まいの身」と云うみ言葉に共感します。そして今回、寄留地である教会、経堂教会が示されました。経堂教会への転入の切掛けは息子の離婚問題です。教会員に祝福された結婚がもろくも破れ、慰謝料など金銭問題を抱えながら同じ教会でイエスさまを共に賛美することに、親として私も耐え難かったため、経堂教会に転入のお願いをしました。

転入承認総会において、上手く伝えることはできませんがイエスさまが、私に慈しみをもって係わって下さった証をさせて頂きました。証を通し過去を振り返ることは、老年期を迎えながら同じ過ちを繰り返す私にとって、今後どの様に生きるか貴重な体験です。

若い時、努力もせずは何をやってもうまくいかないと思う自分に対し、日々必要な生活の糧が与えられ、不自由することなく、整えられた平安な道を歩み続けていることに気づかされた私は、恵みに対して何か表現しなくてはと思いました。新生讃美歌5 14番4節「主のみ旨をしめされ、わが人生恵まれん」とあるような心境でした。恵みがどこから来るものか理解せず1984年3月18日バプテスマを受けました。ですから、信仰告白としては、イエスさまの名前が出てこない中途半端なものであり、信仰厚い信徒にとっては受け入れ難いものだったと思います。聖書を物語として読んでいた私に、恵みは「イエスさまの十字架の贖いと復活によるもの」と教会での礼拝説教や聖書の学びを通して知らされました。

そして、「悲しみ・苦しみのうちに喜びがある」こと知ったのは、受洗後のことでした。息子が小学校3年の時、妻は教会員の祈りのうちに心臓手術を行いました。その後、妻もイエスさまを受け入れ元気でしたが、息子が中学1年の時に亡くなりました。今まで家庭を顧みなかった私と息子の2人の生活が始まりました。本来ならば家庭を第1に考えた生活を選ぶべきなのでしょうが、事務所を開設したばかりの私は、仕事を縮小する気などなく、逆に仕事にのめり込みました。私には充実した日々ではありますが、息子は、不自由さを感じたものと思われる。心根の優しい息子も、当然父親を否定し、家族より友達が大切と公言するようになりました。教会で友達と楽しく過ごしている息子を見ると、日常生活の行動を心配せず、息子の他の行動を知ろうとしなかった私にとって、息子と係ることは、驚きと苦痛と楽しみでした。心配は、息子信じようとする時に起こりました。「息子を信じること」と「イエスさまを信じること」とどちらが易しいことか、ふとした時に何度となく考えさせられました。でも「主は人の一步一步を定め御旨にかなう道を備えてくださる。人は倒れても、打ち捨てられるのではない。主がその手をとらえていてくださる」(詩編37編23-24節)とのみ言葉どおり、イエスさまが、共に歩んでくださ

っている喜びを通して、息子のこと、仕事のこと、将来の幻を見ることが出来るようになったことは感謝です。

経堂教会へ転入早々に私は、大腸がんの手術をしました。手術・抗がん剤の治療を通して「イエスさまの憐れみにより生かされている」こと「教会と教会家族」のこと「祈り合う」ことの恵みを頂き、感謝しています。どちらかと言えば行動的でない私ですが、イエスさまがいろいろな場所に遣わしてくださり、共に歩んでくださっている喜びを味わいつつ、日々生かされています。

Y. I



ろうそくの灯の中で、美しい讃美歌、
トーンチャイムの音色と共に
真の光として来てくださったイエス・キリストを礼拝します。

☆ 12月21日 (日)	クリスマス礼拝	10時30分~12時
	クリスマス祝会	12時30~14時30分



☆ 12月24日 (水)	クリスマスイブ礼拝	19時~
	キャロリング	20時30分~

ご一緒にクリスマスを過ごしませんか。どなたでもどうぞ教会にいらしてください。

聖書を学ぶ会

- 牧師から詳しく聖書を学びます。
- 讃美歌も歌い楽しい会です。

毎週火曜日 午後1時30分～2時30分

聖書研究・祈り会

- 静かな夕べに聖書を学びます。
- 共に祈り合います。

毎週水曜日 午後7時30分～8時30分

教会学校（幼児科）

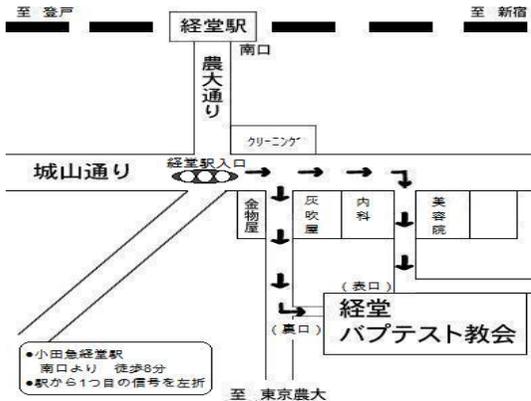
- かわいい讃美歌を歌って、聖書のやさしいお話を聞きます。お祈りもします。

毎週日曜日 午前10時～10時20分

教会学校（成人科）

- 礼拝の中で、牧師のお話を聞いて、感想や意見を述べ合います。わからないところは質問もできます。

毎週日曜日 礼拝後



経堂バプテスト教会

牧師 間瀬 善彦

〒156-0053 世田谷区桜1-64-30

TEL 03-3427-2352

※当教会はプロテスタント教会です。エホバの証人、モルモン教、統一協会などとは異なります。